

道徳教育全体計画

ESD①

・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・世田谷区教育要領 など
・人権教育・生命尊重教育 ・シチズンシップ教育
・ESD：人、社会、自然との かかわり、つながり

校訓・教育目標 向学 誠実 調和 「自ら学び考え行動する人間性豊かな生徒の育成」	
駒の学び舎 「豊かな人間性」の育成の重点	
美しいものに感動し、やさしくひとを思いやる豊かな心をもち、自主的・自律的生活の中で、ひととの良好な関係を構築して自己実現を図ろうとする意欲と能力、道徳性を備えた子どもを育てる。	

本校の道徳教育の重点	
1 生命尊重の精神と人や自然への愛情を深める。 2- (2)、3- (1)、4- (6)	
2 あいさつを励行し、規範意識を高める。 1- (1)、2- (1)、4- (1)、4- (2)、4- (3)、4- (4)	
3 体験活動を推進し、温かい人間関係を築く。 1- (2)、1- (3)、2- (2)、4- (4)	

生徒の傾向 (意識調査等より)
・自信をもち、失敗を怖れないで挑戦する。 ・夢や目標をもつこと、他の人と協力して物事を進めることに課題が見られる。
教職員の願い
・何事にも前向きで思いやりのある生徒 ・自他の生命と人としての良さを尊ぶ生徒 ・礼儀正しく、人や社会の役に立つ生徒

保護者・地域の様子
・保護者も地域も学校に協力的であり、子供の教育にしっかりと取り組んでいる。 ・あいさつができ、やさしい心をもった生徒の育成を連携して進めている。

第1学年の重点	第2学年の重点	第3学年の重点
1- (2) 強い意志 1- (3) 責任感 2- (2) 思いや 3- (1) 生命尊重、3- (3) 心の弱さの克服 4- (2) 公徳心、4- (3) 正義感、4- (6) 家族愛	1- (3) 責任感 2- (2) 思いや 3- (2) 畏敬の念、3- (3) 人間としてのよさ 4- (3) 正義感、4- (5) 勤労観、4- (6) 家族愛	1- (4) 理想の実現、1- (5) 個性の伸長 2- (2) 思いや、2- (3) 友情、2- (6) 感謝 3- (2) 畏敬の念、3- (3) 生きる喜び 4- (1) 遵法、4- (3) 正義感、4- (6) 家族愛

道徳教育の指導方針	
1 かかわりや体験を豊かにし、人間としてよりよく生きようとする心情や実践意欲、態度を育てる。	
2 先人が伝えてきた道徳的な考え方や表現、行動、文化のよさについて理解し、人、社会、自然との持続可能なかかわり、つながりについて考え、大切に継承しようとする心情をはぐくむ。(ESD の土台①)	
3 花や草木、青空や夕焼けなど、自然や四季を話題にし、その美しさを感じることができる情操を養う。	
4 人の痛みや苦しみに共感し、いじめに対して「おかしい」「やめて」「許さない」等の態度を育てる。	
5 道徳授業地区公開講座や家庭教育などを充実し、保護者・地域社会とともに規範意識や思いやりを育てる。	
6 駒の学び舎の小学校と協同して豊かな人間性を養うとともに、学校、地域での善行を認めて自尊感情を高める。	

各教科 ※全教科における人物学習（別葉あり） 1- (2)、1- (4)、3- (3)	
国語	文字や言葉で伝え合う力を高め、他の人と円滑に意志疎通する力やコミュニケーション力の向上を図る。1- (3)、2- (1)、3- (2)、4- (9)
社会	地理・歴史の学習を通じ、自国及び国際理解を進める。3- (2)、4- (10) 公民分野では、人権や法を尊重する心情や態度を養う。4- (1)、4- (3)
数学	数理的解決力を育むことで問題解決能力を養いながら、真理を追究しようという姿勢を身に付け、実践意欲を高める。1- (2)、1- (4)
理科	自然への理解を深め、自然愛護の精神を養いつつ、ものごとの科学的な認識力を高める。3- (1)、3- (2)、3- (3)
音楽	音楽にふれて豊かな情操を養う。また、伝統音楽の学習を通してわが国の文化にふれ、人生を豊かにする。1- (5)、3- (2)、4- (9)
美術	作品の制作を通じ、個性を磨き想像力高め、鑑賞を通して美しいものや伝統芸術に感動する心情をはぐくむ。1- (5)、3- (2)、4- (9)
保育 体育	個性に応じた能力の伸長を図る。規律ある行動と寛容な態度、生命と健康を大切にする心情をはぐくむ。1- (1)、2- (3)、2- (4)、2- (5)、3- (1)
技術 家庭	体験的な学習を通して生活を充実させる方法を学ぶとともに、情報モラルの正しいあり方を身に付ける。1- (1)、2- (4)、3- (2)、4- (3)、4- (5)
英語	言語や文化を学び国際理解の基礎的な力を培う。広く世界に思いをはせ、国際協調や共生のあり方を考える。2- (5)、4- (9)、4- (10)
教科 「日本語」	物事を深く考え、自己を表現し、日本の文化に対する理解を深め、ことばや伝統を大切にする意識を高める。1- (5)、2- (5)、3- (2)、4- (9)

人格の完成を目指して	
○あいさつ・思いや・良心など、自他を敬愛し、自立した個人として成長しようとする心と生活習慣を育てるため、ポスター掲示等を行う。	

学級活動	
特 別 活 動	○学級生活を基盤として、集団の一員としての望ましい資質や態度を養う。4- (4) ○人間関係を良好にし、理想の実現を目指す態度を養う。1- (2)、1- (4)、3- (3) ○偏見や差別を許さない態度を育てる。2- (4)、4- (1)、4- (2)、4- (3)、4- (7)
生徒会活動	○自動的な体験により集団の力を高めるとともに、役割を自覚し責任を果たす態度を育てる。4- (2)、4- (3)、4- (4)※生徒会8ヶ条
学校行事（別葉あり）	○集団の一員としての自覚と責任感をもたせ、学校や学級、地域への愛着をはぐくむ。1- (3)、2- (2)、2- (3)、4- (4)、4- (7)、4- (8)

総合的な学習の時間	
○課題を見つけ、判断し、解決する能力や態度、情報モラル等を育てる。1- (3)、1- (4)、4- (3)	
○学び方やものの考え方を身に付け、問題解決的な学習や探求活動を通して、自己の生き方を考えることができる生徒を育成する。1- (3)、3- (3)	
○職場体験学習や地域でのボランティア活動等を通して、望ましい勤労観や将来の夢、奉仕の心をはぐくむ。4- (2)、4- (5)	

道徳の時間の指導方針	
○1年間ですべての道徳的価値を取り扱うとともに、学年の重点を複数回学習する年間指導計画を作成する。 ○副読本、「私たちの道徳」、「心みつめて」、補助教材、NIE を工夫・活用した授業を通して、道徳的価値に基づいた生き方の自覚を促す。 ○各教科等の指導や体験活動と連携を図りながら、生徒の考え方や経験を補充・深化・統合して、道徳的実践力を育成しその変容を評価する。 ○授業時数を確保し、資料や発問、言語活動に工夫を凝らした授業を展開することにより、生徒の道徳的価値についての自覚を深める。	

家庭・地域との連携	教育環境
○学び舎の小学校や地域における諸団体・各種機関との連携を密にし、交流活動・環境美化活動・安全指導・地域防災活動・ボランティア活動などの体験的な活動を通して、社会に貢献しようとする意欲や奉仕の心等をはぐくむ。 ○学校だより、学年だより、PTA広報誌の発行、HP掲載や授業参観、学校評価を実施することで、道徳教育の目標や道徳の時間の様子等を、保護者や地域社会に発信して説明責任を果たす。 ○道徳地区公開講座、学校運営委員会、学校協議会等をとおして、学校・家庭・地域における生徒の道徳性についての情報交換を行い、理解を深め合う。長期休業日には教材「私たちの道徳」を通じた啓発を進めるようする。	○教員間及び教員と生徒間の好ましい人間関係を構築することで、道徳的価値について共に考える土壤をつくる。 ○複数担任制により、道徳教育及び道徳の時間の指導、教育相談を協力的に行うとともに、教室を道徳的な環境にする。 ○校内・周辺美化活動を活性化させ、過ごしやすい落ち着いた環境整備を進める。タンチ山の自然環境を活用する。 ○図書室・学級文庫を整備することにより、読書活動による道徳性の涵養を図る。教室や廊下に道徳コーナーを設置する。 ○部活動では、異年齢集団の活動を通して、責任感や協調性の育成を図る。

道徳教育推進委員会（道徳教育推進教師）	校長：加藤敏久、 第1学年：西川慶介 第2学年：片桐雄樹 第3学年：◎坂本佳苗
---------------------	---